



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
URL <http://midori.jpn.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
URL <http://www.syujukai.org/> E-mail ikoinosato@syujukai.org

編集責任者：理事長 中村 猛
編 集：季刊誌編集委員会

第66号御挨拶

理事長 中村 猛



皆さん、こんにちは。

秋分の日が過ぎ、昼夜の時間帯が逆転して随分と朝夕がしのぎやすくなりました。田圃の畔道に咲き誇った真紅の秋の彼岸花“曼珠沙華”もその色が褪せ、かわりに稲穂が黄金色に輝きその頭を垂れてまいりました。

先日の9月29日は自民党の新総裁が決まり来週にも政権与党として新首相のもと岸田内閣がスタートする運びとなりました。

続いて国民に信を問う衆議院議員解散総選挙が10月31日投開票が決定し、与野党を問わず政策論争が熱を帯びてまいりました。コロナ対策を筆頭にそのコロナ禍で落ち込んだ経済政策の妙案を論争の中心にあてています。

小生としては、このグローバル化の中、世界における日本の役割を問う国家観、自衛問題とこれからの時代を担う若き世代への教育問題がある程度、避けて通れない課題と

して論争の中心としていただければと思っております。何をにおいても、我が国の誇る民主主義の確かな向上のためには、我々、有権者の社会の平和を望む真実をとらえ、努力する強い信念が大切で、その基盤があってこそ選ばれた政治家に托す事ができます。先日ある話し合いで、真実をとらえない表面的な行き当たりばったりの迎合主義の選挙運動の社会では投票を棄権するとした虚無的な人もおられ、それはならぬ、絶対無投票は駄目だと思っただ次第です。

次第に加速する世の中、しかし人類不変の原理を求め、不動のぶれない社会を確立したいものです。

コロナ感染拡大は下火になりましたが、第6波の来襲も予測され、なお要注意です。

くれぐれも御自愛下さい。



「医療法人みどり会・社会福祉法人松樹会」令和3年度永年勤続者表彰並びに令和2年度業績団体グループ表彰

令和3年度 永年勤続者表彰

勤続35年：松田 秀子（1名）
勤続30年：柴田 きみ子・野間 香織（2名）
勤続20年：謙 瞳・明山 泰子・山内 美香・平井 香奈子・伊内 康宏・野田 隆次・岡崎 基・竹之内 真一（8名）
勤続15年：高橋 輝・角野 友紀・元山 奈穂子・田村 順子・梶河 理恵子・岡崎 亮弥・平野 祐輔・米田 明生・羽田 崇・堀川 菜津子・岩本 将典・末松 邦堂・大里 彩子・宇都宮 純子・設楽 香奈子・芝口 由美子（16名）
勤続10年：伊藤 正恵・岡本 繭美・松野 文子・塩谷 浩子・堀越 周・秋田 和輝・久保 結花・橋本 彬・尾崎 真奈美・香川 慶子・上田 恵美・河内 清美・脇上 正則・松本 純輝・堀田 仁・林 徹・河田 旭・関谷 大・野口 里奈・森 恵美子（20名）

合計47名の方に表彰状及び記念品贈呈

令和2年度 業績団体グループ表彰

理事長賞：グループホームたんぼほ田口「作業療法、回想法、デイサービス様式の導入について」
みどり会賞：中村病院・リハビリテーション部「院外清掃の取り組みについて」
松樹会賞：いこいの里藤阪「コロナ禍の看取りケアについて」

3グループの方に表彰状及び金一封授与



理事長賞：グループホームたんぼほ田口



みどり会賞：中村病院・リハビリテーション部



松樹会賞：いこいの里藤阪



介護部管理者として

なごみの里 介護課長 林 千妃呂

この度、なごみの里通所リハビリセンターから入所フロアに異動して参りました。

通所リハビリセンターでは、約18年お世話になりました。この18年の間で介護保険制度は大きく変わり、ご利用者のニーズの多様化や専門職としての役割の重要性、多職種共同での支援の在り方等、沢山のことを学び・考えさせて頂きました。

私が通所リハビリセンターで管理職になった当初に、あるご家族から「あんたらにとっては大勢いる中の一人かもしれないが、わしにとっては大切な、たった一人しかいない妻なんや。信用して預けられる場所であってくれ」と言われたことがありました。頭ではちゃんとわかっているつもりでいました。けれど、ご家族からの必死のお気持ちを直接伺った事で、改めて甘えてはいけなと強く思いました。それ以来、常にこの事を忘れずに判断に迷った時は、「ご本人のお気持ちは？」「ご家族の思いは？」と思いを巡らせ自分がどうす

るべきかを考え、皆様に安心してご利用頂くために話し合いを重ね、ご支援の方向性を決めてきました。

通所サービスと入所サービスでは、ご利用者や施設に求められているサービスも違います。ご入所の皆様には、居心地よく安心して過ごして頂けるように、また、次のステップに向けて意欲的にリハビリにも取り組んで頂けるように、皆様と共に頑張っていきたいと思っております。ご家族の皆様には、コロナ禍で直接のご面会ができない中でも、ご入所者の普段のご様子をお伝えすることで、少しでも安心してご利用頂ける取り組みを考えていきたいと思っております。

私自身まだまだ経験不足から判断に迷い、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。ただ、信念としている「思いに寄り添う」を見失うことなく皆様に信頼して頂ける介護を目指して、これからも日々精進して参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



コロナ禍での相談員業務

なごみの里 支援相談員 課長代理 設楽 香奈子

現在なごみの里相談員は、春からの人事異動などにより5名から4名体制となりました。

主な業務は、入所希望されているご利用者が円滑に施設へ入所できるようにご家族をはじめ、各関係機関と連絡調整を行っていますが、この新型コロナウイルスの影響により、相談員業務も今まで通りとは行かず、様々な制限が生じました。

入所希望されているご利用者との入所面談は、遠方や特別な事情がない限り、直接お会いして行っていました。感染予防の為に、オンラインやシールド越しでの入所面談が多くなりました。

お身体の様子をゆっくりとお伺いしたいのに、場合によっては5分間という時間制限が設けられたり、顔もマスクで半分以上隠れ、表情も分かりにくくお声も聞こえにくいといった状況での面談に苦慮することも多々あります。

また、なごみの里を知っていただくための施設見学案内も現

在は写真のみでのご案内となりました。実際に見学していただくことで、施設の雰囲気や設備、現場職員や入所者の様子を知ること、ご家族が施設を決める大きな判断材料になっていたはず。何が行われているのか見えにくく、施設を信じるしかない状況に大きな不安をお持ちかと思いますが、より丁寧な説明と面談を心がけ、安心してご利用いただけるようにと努めております。

ワクチン接種も進み、面会などの規制の緩和も検討しているところではありますが、何よりもまずはご利用者の安全を担保しなければなりません。

しかし、コロナ禍だから仕方ないで終わることなく、私たちが今「できること」を常に考え、時には「できないこと」もご理解いただきながら、ご利用者がなごみの里でより良く過ごして頂けるように日々業務に取り組んでまいりたいと思っております。



訪問介護の現状

訪問介護ステーションみどり 所長 中井 正人

新型コロナウイルス感染症の変異株が次々と現れ、今だ感染の終息が見えず、待望のワクチンも効果がどの程度のものなのか？皆様におかれましても、不安と期待の両面を感じながら日々の生活を送られているのではないのでしょうか。

訪問介護の現場でも、当初より厚労省からの参考資料を基に、できる限りの感染対策を行ってきました。環境条件は一軒ずつ異なるため、ご利用者宅によって内容が左右される場合もあります。ヘルパー自身も「持ち込んではいけな」という思い。ご利用者も「持ち込まれては困る」、逆に「うちは大丈夫」という思い。色々な思惑が入り乱れ、双方がストレスを感じる事案も散見されました。ただ、私たちが今できることは、「そこまでするか!」というぐらいの感染対策で訪問することです。それは仕事外の休日でも変わらず継続し、予防に努めています。このようなことは、訪問介護のヘルパーだけに限った

ことではなく、他の現場で働く職員も同様に取り組んでいて、自身への感染リスクを顧みず、強い使命感を持ってご利用者の支援に携わっていることと思います。

コロナ禍以降、感染対策グッズを身にまとったり、対面での会議を控えたり、事務所への出入りも少なくなったりと不便な場面も増えました。限られた人員で運営しているため、ご利用者にも色々な場面で、感染対策のお願いをしてきました。皆様のご協力のおかげで、なんとか事業所も止まることなく動き続けています。

まだ、様々な制限がつかまとい窮屈な生活を強いられると思えます。しかし、ご利用者宅の玄関を開けると、変わらぬ風景があり、そこに私たちが訪問させてもらえる事に感謝をする今日この頃です。この難局を乗り越えるべく、引き続きのご協力よろしくお願い申し上げます。

在宅支援



重層的支援体制整備事業について

枚方市地域包括支援センターみどり 所長 伊内 康宏

2017年に社会福祉法が改正され、市町村が包括的な支援体制づくりに努める地域福祉推進の理念が規定されました。2020年には地域住民の複雑・多様化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため①属性を問わない相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援の3つを一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」が創設されました。枚方市においても、令和4年度から本格実施予定のようです。

私たち包括としては、例えば高齢者(80代)の虐待で介入した際、その子ども(50代)に発達障害が隠れている場合や、さらに孫(10

代)の養育の問題があったケースなどが、この重層的支援で対応していくのだと思っています。支えるためには、枚方市内のたくさんの機関が連携しなければなりません。現状は、個人情報関係で連携ができない課題があります。この縦割りを解消していくことが重層的支援のメリットの一つです。

よりよい連携には、相互理解が不可欠ですが、今の包括が子ども支援機関と理解し合っているかと言えれば不十分と言わざるを得ません。しっかりと支えられるチームとなれるように、関係機関と相互理解を深めていきたいと思っております。



「たんぽぽ便り」ホームページ掲載中

たんぽぽ藤阪 管理者 梅村 匠

定期的に発行いたしておりました「たんぽぽ便り」ですが、今後は社会福祉法人松樹会のホームページにて閲覧できるようになりました。様式も新たに、皆様に見やすい形にしております。みどり会・松樹会には3つのグループホーム(田口・長尾・藤阪)があり、毎月の活動報告をこの「たんぽぽ便り」にて

お伝えできればと考えております。パソコンに加え、スマートフォンでも気軽にご覧いただけますので、ぜひご利用ください。



https://www.syoujukai.org/common/letter/letter_2108.pdf



訪問販売 コロナ禍にも買物の楽しみを

つくしんぼ長尾 施設長 竹之内 真一

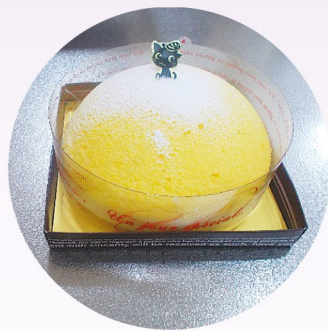
4度目の緊急事態宣言の中で、入居者様へは、不要不急の外出の自粛をお願いしています。入居者様の生活で不要不急とは何か。病院への受診、銀行に行く、生活を営む上で必要なことは行ってもらっています。ただ、買い物はお店が不特定多数の人が集まる場所という事で緊急事態宣言中は遠慮してもらっています。そんな中、以前より“とくし丸”、“中村病院売店”の訪問販売が週1回、施設に来て下さっています。業者さんの販売準備ができたなら館内放送をしますが、心待ちにしている入居者様は放送前に既に待ち構えておられ、並べられたパンや飲み物、日用品等を自由に選ばれ好みの品物を購入されます。感染予防のため人数制限も行っています。コロナ禍にあって、楽しみの一つになり喜ばれています。



社会福祉法人松樹会「敬老祝賀会」

つくしんぼ藤阪 施設長 坊 晃子

敬老の日を迎えられた皆様へ、心よりお祝い申し上げます。今年も松樹会各施設にて「敬老祝賀会」が行われました。どの施設も3密を避けるイベントを考案し、笑顔あふれるお食事とともに、ご長寿のお祝いを開催することが出来ました。



各施設連絡先

社会福祉法人 松樹会

特別養護老人ホームいこいの里 072-898-2197
 デイサービスセンターいこいの里
 サテライトいこいの里 072-849-2210
 特別養護老人ホームいこいの里藤阪 072-868-2192
 特別養護老人ホームいこいの里長尾 072-868-1893
 ケアハウスつくしんぼ長尾 072-868-2190
 デイサービスセンター長尾
 ケアハウスつくしんぼ藤阪 072-868-2191
 グループホームたんぽぽ藤阪 072-868-2197
 グループホームたんぽぽ田口 072-898-2193
 小規模多機能ホームふじ 072-868-2193
 看護小規模多機能ホームなお 072-868-1894
 居宅介護支援センターつくしんぼ 072-898-2196
 障害福祉サービス ミルキーウェイ 072-867-5690

医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071
 中村記念クリニック 072-868-2070
 介護老人保健施設 なごみの里 072-868-2072
 サテライトなごみの里 072-818-2071
 デイサービス長尾の里
 有料老人ホーム みどりの館 072-868-2727
 グループホームたんぽぽ長尾 072-868-2195
 ケアプランセンター なごみ 072-818-7533
 訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
 地域包括支援センター みどり 072-845-2002
 研修所 みどりの樹 0264-44-2550

ルーク山田眼科 072-868-0880

—— 編集後記 ——

今年度、私的な会の幹事になり、コロナ禍の中でもと行企画をしましたが、緊急事態宣言等々で結局は全部中止の案内となり幹事の役目は果たせずです。10月からは緊急事態宣言も解除になりましたので残り3か月で心に残る企画をと思っている昨今です。両法人季刊誌みどりの風秋号(第66号)をご一読いただき至らない点もあつたかと思いますが、次号も暖かく見守っていただけると嬉しく思います。
 編集委員一同、皆様からの投稿もお待ちしています。midorino-kaze@midori.jp.org まで。
 今後ともよろしくご指導、ご支援の程お願い申し上げます。

みどりの風編集委員会

連絡先 ☎072-868-2071 法人本部 松田